

# 『おもろさうし』を調べる

## 1. 『おもろさうし』とは

首里王府が奄美・沖縄に伝わるおもろを少なくとも3回にわたって採録した沖縄最古の歌謡集で全22巻ある。歌数1554で重複を除いた実数は1248首になる。(参考文献:比嘉実『『おもろさうし』』『沖縄大百科事典上』沖縄タイムス社1983)

第1巻は1531年に編集され、第2巻は1613年5月28日に編集されている。第3巻から第22までは、巻11、巻14、巻17、巻22の4巻を除いて、1623年3月7日に編集されている。巻22は1首を除いてすべて他の巻からピックアップされたもので、この巻は若干編集が遅れたとも考えられるが、巻11は巻21の久米島おもろと同じものであったことから、1623年同時に出来たことは間違いない。巻14、巻17もだいたいこの頃に出来たと考えられる。(参考文献:池宮正治『『おもろさうし』概説—初めて読む人のために—』『おもろ精華抄』p.3-p.6 おもろ研究会1987ひるぎ社)

『おもろさうし』の概観については外間守善編『おもろさうし』(岩波書店2000)の「七『おもろさうし』の原本と書写諸本」も参考になる。

## 2. 原本と書写諸本

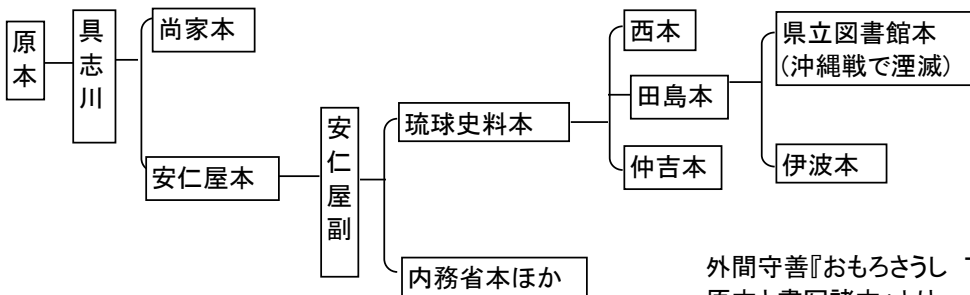
『おもろさうし』の原本は1709年の首里城火災のさい焼失。翌年、具志川家に伝わる〈具志川本〉をもとに再編纂がおこなわれた。そのときの編集責任者が国場朝睦(当時津嘉山)である。再編纂では2部作られ、1部は城内に(尚家本)、1部はおもろ主取の安仁屋家に(安仁屋本)保管された。

〈尚家本〉は現在最古のもので、県立博物館所蔵、国指定重要文化財である(1973.6指定)。

〈安仁屋本〉には言葉間(間)書(注)が記入されており、その後の諸本1988~92年、沖縄県庁による琉球史料60余巻中にあった琉球史料本、その筆者で西常央が所蔵していた〈西本〉、同様に、田島利三郎が写した〈田島本〉、仲吉朝助の蔵して居た〈仲吉本〉、安仁屋本・尚家本などと校合・校訂した伊波普猷の『校訂おもろさうし』(伊波本)があり、さらに仲吉本を底本に、尚家本・伊波本と合体した『校本おもろさうし』(仲原善忠・外間守善)がある。(参考文献:比嘉実『『おもろさうし』』『沖縄大百科事典 上』沖縄タイムス社1983)

尚家本は、沖縄戦で焼失したと思われていたが、アメリカの軍人が戦利品として本国に持ち帰っていたことがわかり、仲原善忠・吉里弘らの返還運動によって、1953年アイゼンハワー大統領の名で沖縄に返還された。現在、国の重要文化財に指定され、沖縄県立博物館に所蔵されている。(参考文献:外間守善『七『おもろさうし』の原本と書写諸本』『おもろさうし 下』岩波書店2000)

『おもろさうし』の内容、写本については『沖縄大百科事典』の「おもろ」の項や『琉球文学論の方法』の「『おもろさうし』の成立」(池宮正治 三一書房1982)の項も参考になる。



外間守善『おもろさうし 下』の「七『おもろさうし』の原本と書写諸本」より

## 3. 『おもろさうし』を読む

『お母ろ御さうし』(琉球王府 編、ひるぎ社、1979)  
尚家本の影印本

【k912/R98】

『尚家本『おもろさうし』』(沖縄研究資料14)  
(比嘉実 編、法政大学沖縄文化研究所、1993)  
尚家本の翻刻

【k912/H91】

- 『定本おもろさうし』(外間 守善 波照間 永吉 編、角川書店、2002) 【k912/H82】  
尚家本を底本とし、語の意味をのせている。
- 『おもろさうし全釈』(1～5)(鳥越 憲三郎 編、大坂清文堂、1968) 【k912/TO67】  
自序に「最古の首里王府の原本を直接校本とした」とあり、『尚家本『おもろさうし』(沖縄研究資料14)』は「尚家本が底本と思われる」と解説している。  
1首毎に解釈と説明をのせている。
- 『校訂おもろさうし』(琉球王府 編、南島談話会、1925) 【k912/I25】  
伊波本を安仁屋本・尚家本などと校合・校訂。注記に語の意味がある。
- 『校本おもろさうし』(仲原 善忠 編、角川書店、1972) 【k912/N33】  
仲吉本と尚家本が底本 注記に語の意味などがある。
- 『おもろさうし』(外間 守善 編、角川書店、1993) 【k912/H82】  
『校本おもろさうし』の注記を除いたもの。
- 『おもろさうし 日本思想大系18』(外間守善 西郷信綱 校注、岩波書店、1972) 【k912/H82】  
仲吉本、尚家本、校訂おもろさうしを参考にしている。語釈つき。
- 『おもろさうし』(上下)(外間守善 校注、岩波書店、2000) 【k912/H82】  
仲吉本を底本にし、尚家本や『校訂おもろさうし』を校訂の参考にしている。訳、解説つき。

#### 4.『おもろさうし』のこばを調べる

- 『おもろさうし辞典 総索引』(仲原 善忠 編著、角川書店、1967) 【k912/N33】
- 『おもろ語辞書』(外間 守善 編著、角川書店、1972) 【k912/H82】
- 『沖縄大百科事典』上(沖縄大百科事典刊行事務局 編、沖縄タイムス社、1983) 【k03/O52】  
「おもろの言語」の項目。高橋俊三
- 『沖縄古語大辞典』(沖縄古語大辞典編集委員会 編、角川書店、1995) 【k80/O52】
- 『日本列島の言語』(言語学大事典セレクション)(亀井 孝[ほか]編著、三省堂、1997) 【k80/N77】  
「VI 古典琉球語」の項目。高橋俊三

#### 5.読み方を調べる

- 『古代沖縄の姿』(宮城真治 著、宮城真治、1954) 【k200.4/MI73】  
p.393-426に発音についての考察がある。
- 『おもろさうし全釈』5(鳥越憲三郎 編、大坂清文堂出版、1968) 【k912/TO67】  
「オモロ音韻表記一覧表」で読み方を調べることができる。
- 『琉球文学論の方法』(池宮正治 著、三一書房、1982) 【k90/I33】  
p.62に「又」「一」などの記号の説明がある。
- 『南島の神歌 おもろさうし』(外間守善 著、中央公論社、1994) 【k912/H82】  
p.313-320に読み方(繰り返し記号など)についての説明がある。
- 『おもろさうし』 下(外間守善 校注、岩波書店、2000) 【k912/H82】  
『おもろさうし』概説の項や六『おもろさうし』の読み方ー構造論的開読法の項で調べることができる。

#### 6.『おもろさうし』について学ぶ

- 『おもろ新釈』(仲原善忠 著、琉球文教図書株式会社、1957) 【k912/N33】
- 『琉球文学論』(池宮正治 著、沖縄タイムス社、1976) 【k90/I33】
- 『琉球文学表現論』(嘉味田宗栄 著、沖縄タイムス社、1977) 【k90/KA38】
- 『琉球文学小見』(嘉味田宗栄 著、沖縄時事出版、1982) 【k90/KA37】
- 『古琉球の世界』(比嘉実 著、三一書房、1982) 【k90/H55】
- 『古典を読む おもろさうし』(外間 守善 編、岩波書店、1985) 【k912/H82】
- 『おもろさうし精華抄』(池宮 正治 編、ひるぎ社、1987) 【k912/O63】
- 『南島祭祀歌謡の研究』(波照間永吉 著、砂小屋書房、1999) 【k912/H42】
- 『おもろと琉歌の世界』(嘉手苺千鶴子 著、森話社、2003) 【k912/KA13】
- 『標音おもろさうし注釈』(清水 彰 著、和泉書院、2003) 【k912/SH49】